

はまちどり  
浜千鳥節  
(二揚げ)

たび はまやどぅ くさ ふぁ まくら  
1. 旅や浜宿い 草ぬ(ヤレ) 葉の枕  
に わし わや  
寝ていん忘らん 我親ぬ(ヤレ)  
わや うすば  
我親ぬ御側  
ちぢゅ はまう  
(千鳥や浜居ていちゅいちゅいな)

たびやどぅ に ざ まくら だ  
2. 旅宿ぬ寝覚み 枕(ヤレ)すば立ていてい  
うびじゃ んかし ゆわ  
思出すさ昔 夜半ぬ(ヤレ)  
ゆわ  
夜半ぬついらさ  
ちぢゅ はまう  
(千鳥や浜居ていちゅいちゅいな)

とうけ  
3. 渡海やふいじゃみていん  
てい ふいとぅ  
照るつい(ヤレ)ちや 一つい  
なが きゆ  
あまん眺みゆら 今日ぬ(ヤレ)  
きゆ すら  
今日ぬ空や  
ちぢゅ はまう  
(千鳥や浜居ていちゅいちゅいな)

しばきうい う  
4. 柴木植てい置かば  
しばし(ヤレ)ばとういもり  
またきうい う  
真竹植てい置かば またん(ヤレ)  
またんいもり  
ちぢゅ はまう  
(千鳥や浜居ていちゅいちゅいな)

旅は浜に宿り、草の葉を枕にしている。  
寝ても忘れられないのは  
親のそばで暮らした日々のことである。  
(千鳥は浜でちゅいちゅいと鳴いている)

旅の宿で目がさめて  
枕をそばだてていると、  
昔が思い出されて辛い夜半である。

海を隔てて遠く暮らしていても  
照る月は一つである。  
あの人も月を眺めているだろうか、  
今日の空を。

柴木を植えておくから  
しばしばおいでください。  
真竹を植えておくから  
またおいでください。

< 解説 > 女踊の舞踊曲です。夜の浜辺にて、遠く離れた故郷とそこに残してきた愛しい人を偲び、  
旅愁を唄っています。

「ちぢゅや」は浜千鳥の愛称。切なく鳴く千鳥に自分の姿を重ねています。

< 舞踊 >

